

佐賀県工業技術センターにおける家具産地を対象にした デザイン思考の普及に向けた取り組み

佐賀県工業技術センター 生産技術部 分室 諸富デザインセンター 特別研究員 佐藤 彰

◇ はじめに

佐賀県工業技術センターでは、県を代表する地場産業の一つである諸富家具をはじめ、県内の家具木工関連企業の支援拠点として、平成3年度に分室として諸富デザインセンターを開設しました。商品企画やデザイン開発に関する研究及び支援、市場動向等の情報発信、異業種交流や研修会活動の拠点としての機能を果たしています。

本稿では、諸富家具産地の商品開発力の向上を目的に、平成28年度から令和3年度まで取り組んだデザイン思考を活用した商品開発手法を産地内に普及するための研究・支援内容を紹介します。

◇ 諸富家具について

諸富家具は、日本を代表する家具産地の一つである大川家具産地と筑後川を挟んで隣接しています。1955年の諸富・大川橋の開通により、大川との人や物の行き来が盛んになり、大川から諸富町に進出する家具製造関連企業が出てきました。1966年に諸富・大川橋が無料開放されると、大川からの進出に拍車がかかり、現在は九州第二位の家具産地にまで成長しました。量産を得意とするメーカーや木の質感やデザイン性を追求するメーカー、官公庁や商業・医療施設向けの家具を得意とするメーカー、玩具や生活用具類等の木製小物を得意とするメーカー、建具メーカー、部材加工メーカー、資材業、卸業と、多様な関連業種で構成されていることも産地の特徴の一つとなっています。

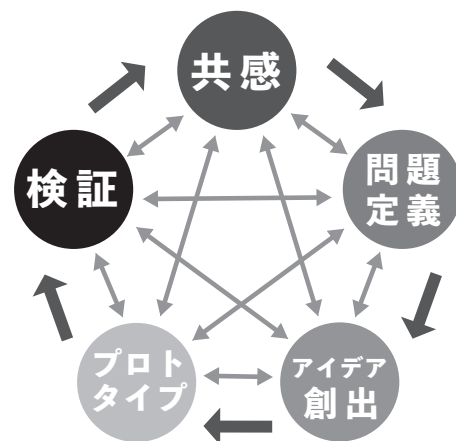
◇ デザイン思考普及に向けた取り組みの概要

新たな価値を創出するための方法論としてデザイ

ン思考は、国内外の様々な分野において導入され、ものづくりの分野においても有効な開発手法として活用されています。成熟した家具市場の中で、諸富家具産地がデザイン思考を活用できれば、ユーザーにとって新たな価値を有する商品の開発が可能となり、売上の向上や新たな市場の開拓につながることを期待できます。しかし、産地企業が一般的にいられているデザイン思考のプロセス [図1] や手法を家具・インテリアの分野に応用したり、実践体制を短期間で社内に構築することは難しいのが現状です。

そこで当センターでは、新たな価値を有する商品を継続して開発できる産地企業の育成を目的に、産地企業が実践可能なデザイン思考を活用した新たな

●図1 デザイン思考の一般的なプロセス



商品開発手法の構築と普及に取り組まれました。

◇ モデル企業との取り組み

まず、産地企業1社の協力を得て、モデル企業と